

事業の背景・目的

立山は、中部山岳国立公園及びラムサール条約登録湿地である弥陀ヶ原や絶滅危惧種の雷鳥などの貴重な生態系を有し、原始的な自然が残された地区である。その一方で、立山黒部アルペンルートは年間約100万人が訪れる国際山岳観光地であり、自然環境への影響を最小限に留める取り組みが求められている。そこで、アルペンルート沿線における外来植物の除去・予防を推進するリーダーを養成し、次代を担う環境保全に関する人材の裾野拡大を図る。



事業の内容

・外来植物除去をはじめとした環境保全に関する人材育成及びPR活動を行い、これまで同様の活動に携わってきた方々の知識・ノウハウを次世代に継承し、持続的な環境保全活動に取り組める体制の基礎を作る。

事業①アルペンルート沿線外来植物除去リーダー育成事業

- ・外来植物除去指導実習による指導方法の確立
- ・外来植物生育分布マップの作成
- ・外来植物の除去活動及びリーダーによる環境保全研修
- ・外来植物除去活動

事業②立山美化清掃大会事業

- ・県内自然保護団体等から参加者を募り、国立公園内の外来植物除去・環境美化を実施
- ・観光客や登山客の衆目で実施する環境保全への啓発運動



得られた成果

- ・リーダー育成事業では、外来植物除去に関する知識や技術を習得したリーダー候補者が、次世代を担う方々に教示する機会を設けたことで、外来植物のみならず環境保護意識をもつ方々の裾野の拡大が図ることができた。また、リーダー候補者が中心となり、活動を通して得た情報を外来植物生育マップにまとめた。これは、昨年度に作成したリーフレットとあわせて、次世代に継承し、持続的な環境保全活動を行っていく上で有用なものになると考えられる。
- ・立山美化清掃大会事業では、ごみ拾い・外来植物除去活動を観光客や登山客の衆目の中で実施した。効果的な美化活動が実施できたことだけでなく、環境保全に関するPRを一般客の印象に残る形で行うことができた。

